

一般社団法人 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会

2021 年度 定例代議員総会議事録

日 時：2021 年 11 月 11 日（木）17：15～18：45

会 場：サンポートホール高松 ホール棟 5 階 第 2 小ホール

形 式：会場ならびに Zoom オンラインの併称

代議員数：214 名

出席者数：168 名（本人出席 93 名、委任状出席 75 名）

出席理事：石川朗、植木純、大平徹郎、桂秀樹、川山智隆、黒澤一、神津玲、権寧博、近藤康
竹川幸恵、田邊信宏、玉木彰、津田徹、富井啓介、仲村秀俊、長谷川智子、長谷川好規、
平井豊博、福家聡、堀江健夫、宮川哲夫、森由弘
（計 22 名）

欠席理事：関川清一、中山勝敏、吉川雅則（計 3 名）

出席監事：一和多俊男、岩永知秋、陳和夫（計 3 名）（五十音順、敬称略）

議事開始について：

定款第 17 条により議長には植木理事長がついた。また、本代議員総会の成立条件である定足数については、定款第 19 条第 1 項により「代議員総会の決議は、総代議員の議決権の過半数を有する代議員が出席し、出席した当該代議員の議決権の過半数をもって行う」となっており、総代議員現在数 214 名の過半数である 108 名（委任状含む）の出席が必要であるが、本日の総会は、代議員出席者 168 名（委任状提出者 75 名含む）であり、過半数の 108 名を上回った。

よって本代議員総会は有効に成立し、以下の議案について随時審議した。

第 1 号議案 議事録署名人の選任について〔審議事項〕

定款第 23 条により、「代議員総会の議事については、法令の定めるところにより、議事録を作成する。議長および代議員総会において選任された議事録署名人 1 名は前項の議事録に記名捺印する」とあり、32 回会長を務められる桂秀樹理事が推薦され承認された。

第 2 号議案 学術集会について〔報告事項・審議事項〕

第 31 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、森会長より資料 2 頁以下記載の通り、基調講演・特別講演・招請講演等のプログラム数や内容の紹介等準備状況の報告があった。

第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、桂会長より資料 9 頁に記載のとおり、開催について準備状況の報告があった。

第 33 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、黒澤会長より、会期・会場について、宮城県仙台市の仙台国際センターにおいて、2023 年 12 月 1 日（金）～2 日（土）において開催したいとの報告があった。これにより、代議員総会、理事会、各種委員会ならびに第 10 回呼吸ケア指導スキルアップセミナーは前日の 11 月 30 日（木）に開催したい旨も併せて報告がなされた。

第 34 回学術集會會長については、2021 年 8 月 21 日に開催した理事会で近藤康博先生が推薦されたことが報告され、本会に諮った結果、承認された。

第 3 号議案 学会賞・学会奨励賞受賞について〔報告事項・審議事項〕

森学会賞選考委員長より、選考結果について報告があった。学会賞 3 件、学会奨励賞 3 件の応募があり、委員会、理事会で審議した結果、学会賞 1 件、学会奨励賞 3 件が本会に諮られ承認された。受賞者を以下に記載する。

<受賞者> (敬称略)

学会賞：南方良章 (国立病院機構和歌山病院 呼吸器内科)

研究業績題目：COPD 患者に対する身体活動性評価法開発と向上に向けた取り組み

学会奨励賞：今村創 (東京女子医科大学八千代医療センターリハビリテーション部)

研究業績題目：COPD 患者におけるメンテナンスを含む呼吸リハビリテーションの長期効果-メタ解析を用いた検討-

白石匡 (近畿大学病院リハビリテーション部)

研究業績題目：COPD 患者に対する超音波診断装置を用いた呼吸筋評価の有用性の検討

村川勇一 (さぬき市民病院リハビリテーション技術科)

研究業績題目：急性期中病院における高齢肺炎患者の ADL 能力に影響する因子の検討
-早期からの栄養療法と呼吸リハビリテーションの重要性-

第 4 号議案 医療の質特別賞受賞について〔報告事項・審議事項〕

堀江診療報酬適正化委員長より、選考結果について報告があった。一次選考 207 演題、二次選考 55 題があり、委員会、理事会で審議した結果、資料記載の 4 件が本会に諮られ承認された。受賞者を以下に記載する。

<受賞者> (敬称略)

[呼吸リハビリテーション領域]

演題名：慢性呼吸器疾患患者の要介護度認定結果の満足度と問題点

筆頭演者名：森大地 (霧が丘つだ病院) 職種：理学療法士

[酸素療法・呼吸管理領域]

演題名：在宅酸素療法の適正使用の実態と看護外来における介入

筆頭演者名：中西美貴 (大阪大学医学部附属病院看護部) 職種：看護師

[疾病管理領域]

該当なし

[その他の領域]

演題名：COPD 患者におけるサルコペニアが運動中換気応答及び息切れの質と強度に及ぼす影響

筆頭演者名：金崎雅史 (東京国際大学医療健康学部理学療法学科) 職種：理学療法士

第 5 号議案 2020 年度事業報告〔報告事項〕

① 2020 年度事業報告

議長の指名により、事務局から配付資料に基づき 2020 年度の事業報告がなされ、学術集会・地方会の開催や学会誌の発行等が報告された。

② 会員数の推移状況

議長の指名により、事務局から、資料 P16～18 にかけて職種別・支部別・都道府県別の一般会員数について報告があった。2020 年度は COVID-19 禍で、前年度から継続して新規入会数が伸び悩んだ結果、4,300 名台になり、ピーク時（2018 年度）より 200 名以上の減少となったことが報告された。

第 6 号議案 2020 年度決算報告〔報告事項・審議事項〕

配付資料に基づき、権財務委員長より決算報告がなされ、事務局より補足説明があった。2020 年度は、第 30 回学術集会がハイブリッド開催で厳しい収支となったこともあり、前年度より 14 百万円下回る 655 万円の当期経常増減額となった旨の報告があった。陳監事より監査報告があり、2020 年度決算は承認された。

第 7 号議案 2021 年度事業計画ならびに予算（案）〔報告事項〕

議長の指名により、事務局から、配付資料に基づいて 2021 年度事業計画案が報告された。続いて、権財務委員長より、2021 年度予算について報告が行われた。2021 年度については、わずかの黒字を見込むものの、状況次第では赤字を余儀なくされる可能性が示唆された。

第 8 号議案 名誉会員・功労会員候補について〔審議事項〕

<2021 年度>

名誉会員候補：宮本顕二先生（北海道支部）

近藤哲理先生、檀原高先生（関東支部）

佐藤哲夫先生（東海支部）

松尾ミヨ子先生（近畿支部）

功労会員候補：櫻井滋先生（東北支部）

藤本圭作先生（甲信越支部）

長谷川好規先生（東海支部）

陳和夫先生、坪井知正先生（近畿支部）

宮川哲夫先生（中国・四国支部）

理事会から推薦された 2021 年度の候補者全員が承認された。

第 9 号議案 理事会報告〔報告事項〕

議長より、33 頁記載の配布資料に基づき、本年 3 月 18 日開催ならびに 8 月 21 日開催の理事会

での審議結果について説明があり、付議されたすべての議案で承認可決されたとの報告があった。

第 10 号議案 会員の懲戒処分について〔審議事項〕

議長の指名により、事務局より、配布資料 34 頁に記載の会員の懲戒処分について説明があった。第三者供賄罪で最高裁判所判決が確定した会員（氏名省略、総会時に口頭で開示）に対して、会員資格停止 2 年の処分とし、期間は本年 7 月 16 日から 2023 年 7 月 15 日までとするもの。当該会員は、医道審議会で医業停止 2 年の処分が科されており、医業停止期間と会員資格停止期間を同一とした。本案について議場に諮った結果、満場一致で承認可決された。

第 11 号議案 関連学術団体への協賛金支出協力について〔審議事項〕

議長の指名により、事務局より、配付資料 35 頁に記載の関連学術団体への協賛金支出協力について説明があった。GOLD 日本委員会が主催する日本 COPD サミット開催に当学会も主催者として関与すべく、協賛費として定額を支出したい旨が諮られた。本件は学会理事の協賛費支出元ならびに支出先の役職兼務により利益相反が生じるため、法令に基づき代議員総会に付議するもの。満場一致で承認可決された。

第 12 号議案 各種委員会報告〔報告事項〕

① 総務委員会報告

植木総務委員長から 8 月 21 日に開催した委員会審議内容について報告があった。第 34 回学術集会会長については、第 2 号議案で報告した通り近藤康博先生を推薦した。功労会員の選考基準について、委員会活動は短期や WG を含めて幅広く捉えて加点評価することや支部学術集会会長については、準備活動の有無にかかわらず開催中止となっても加点評価すること等を決定した。2021 年度名誉会員・功労会員について、候補者推薦基準に基づいて審議を行い、第 8 号議案で承認された先生方を推薦した。また、名誉会員については、2022 年度の対象者から内規の候補者基準に則した採点により推薦決定をすることや選考表による理事会付議、推薦基準の外部公表も 2022 年度から実施することが報告された。

② 将来計画委員会報告

吉川委員長欠席の為、近藤委員より、資料に基づいて新規会員獲得の増強や他学会との連携について検討した旨の報告がなされた。会員数の伸び悩みに加え退会者が増えており、今後の会員増強策について他委員会とも連携して継続検討していく旨の報告があった。

なお、吉川先生から委員長辞任申出があったため、理事長より、先ほどの理事会で近藤康博先生が選任された旨の報告があった。

③ 財務委員会報告

権財務委員長から7月に開催された委員会審議について、第30回学術集会決算報告、第31回学術集会予算、2021年度予算案について審議した結果、承認された旨の報告がなされた。会員数減少による収入減等をカバーするため、学術集会の効率的運営による余剰金確保や著作権使用料などの安定した収益源の確保が課題である旨の発言があった

④ 編集委員会報告

黒澤編集委員長からコレスポンディングオーサーの掲載、J-STAGE 早期公開、COVID-19 症例報告募集の開始（倫理審査検討結果を前提）、用語集第3版の掲載、論文審査（採択率低下の原因把握）掲載論文内訳、転載許諾状況について報告がなされた。

⑤ 呼吸リハビリテーション委員会報告

植木委員長より、第16回呼吸リハビリテーション研修会は、2020,2021年と中止したが、2022年学会年度中での開催を検討していること、第17回については16回の翌年開催を検討していること、3学会合同で改訂を進めている「呼吸リハビリテーションマニュアルー患者教育の考え方と実践ー」について、題名を改称して「呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル」にて、スケジュールのタイトを勘案して、完成時期2022年3月を更に6月まで延長交渉中である旨の報告がなされた。

⑥ 診療報酬適正化委員会報告

堀江診療報酬適正化委員長より、2020年度の主な活動報告、2022年度診療報酬改定提案、11月に開催された医療技術評価分科会での一次審査の結果（在宅ハイフローセラピー、外来呼吸ケア管理料について対象になった）、第4回医療の質特別賞の選考に向けた問題点についての検討状況、今後の活動計画等が報告された。診療報酬改定で採択されたものについて今後会員への説明等工夫していく方針。

⑦ 広報委員会報告

福家広報委員長より、2020年度の活動結果ならびに21年度の活動計画について説明があった。ホームページのリニューアルを主な課題として、関連してコンテンツの見直し、スマホ対応、英文ページの設置、編集委員会と連携したCOVID-19症例報告の募集開始等について報告がなされた。新規会員増強の一環としてSNSの有効活用について今後検討していくことが申し合わされた。

⑧ 呼吸ケア指導士認定委員会報告

桂呼吸ケア指導士認定委員長より、2021年呼吸ケア指導士認定（初回・更新）、新型コロナウイルス感染症による特別措置（更新期間の1年延長）、呼吸ケア指導士申請書式の変更、呼吸ケア指導認定講習会のWeb開催状況、GSK医学教育助成金を活用した実技講習会の単位付与、

2022年呼吸ケア指導士更新認定受付開始について報告された。

⑨ 呼吸ケアスキルアップセミナー実行委員会報告

桂呼吸ケアスキルアップセミナー実行委員委員長より、2021年3月開催の第7回セミナーの結果報告、また、11月開催の第8回セミナーの開催概要、第5回セミナー講演要旨の学会誌29-3号への掲載等が説明された。第6回、第7回の掲載については、30-2号以降となる旨の報告があった。

⑩ 倫理・COI（利益相反）委員会報告

長谷川倫理・COI（利益相反）委員長より、10月16日に委員会を開催し、新役員および第32回学術集会プログラム委員、さらに呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル作成委員（未確認分）のCOI自己申告書の提出内容確認を行ったこと、会員の懲戒処分について、第三者供賄罪により医道審議会で医業停止2年の処分を受けた学会員（氏名省略）に対して会員資格停止2年を決定し、常務理事会に上申したこと、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等に基づく学術集会演題登録や発表時の倫理審査登録について、外科系学会と同様の倫理審査に関する指針、基準を定めたマニュアルの作成について、具体的に日本消化器外科学会等の倫理指針を参考に当学会での指針や基準を作成し今後2～3年を周知期間として学術集会等を通じて会員向け教育を進めていく旨、先ほど開催の理事会で決議をいただいたことなどが報告された。

⑪ 国際化委員会報告

川山国際化委員長より、学会ホームページの英語版の作成、32回学術集会での海外演者の招請や国際シンポジウムの企画の提案・支援、32回学術集会における学会員の国際学会や海外施設への参加支援、学会員向けの海外演者の講演会等の動画配信サービス、学会員に対する海外学会参加あるいは会員等のニーズ調査の実施（理事会で承認済）について報告がなされた。

⑫ 禁煙推進委員会報告

黒澤禁煙推進委員長より、昨期（一和多委員長）の活動実績として、禁煙宣言の公開、タバコ関連企業からの資金 受入れ自粛、呼吸ケア指導士規則での非喫煙者規定化、呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアルの禁煙項目の執筆、禁煙推進学術ネットワークに加盟したこと、禁煙推進学術ネットワーク関連では、加熱式タバコの肺障害症例の報告、禁煙治療標準手順書の改訂に参画したとの報告があった。

今後の活動計画としては、1)地域での禁煙啓発ニーズを探る(理事会でアンケート実施承認済)、2)学会での禁煙活動の視覚化(HPや学会誌での発表促進)、3)学術集会での禁煙セッションのサポート、協力、スポーツイベントの企画、4)禁煙外来施設の紹介、5)各職種における患者向け禁煙サポートやポケットガイドなどの作成を行うことになった。その他の報告として、たばこ会社の動向について、英国籍の吸入デバイス製造会社(ベクトラ社)がフィリップモリス社に買収されたとの報告があった。同社製品への対応についてATS、ERS、APSR、JRS等の公式見解が出ておらず、今後の動向を注視していく方針。

⑬ 呼吸不全緩和ケア検討委員会報告

津田呼吸不全緩和ケア検討委員長より、2021年4月に日本呼吸器学会と合同にて「非がん性呼吸器疾患の緩和ケア指針2021」を公開、その後の対応について、厚労省説明、診療報酬での緩和ケア加算の提案、関連学会との連携した周知、また日経メディカルでの周知も進めている、との報告があった。

⑭ 医学教育事業検討委員会報告

桑平医学教育事業検討委員長より、日本呼吸器学会と本学会の合同事業であるe-ラーニングコンテンツ作成・公開（あと1件で全タイトルが収録完了予定）の進捗状況ならびに本学会員の視聴状況（9,421回）が報告された。

2016年度GSK医学教育事業助成は、呼吸器疾患支援患者のセルフマネジメント支援マニュアルの作成、COVID-19の蔓延を踏まえ2022年3月末までの繰延承認済であるが、さらに6月末までの延長を交渉中。

2020年度GSK医学教育事業助成については、委員からの報告により、各支部実技講習会での使用計画を一覧化した。2022年開催は5支部で北海道、甲信越支部で使用計画の提出があった。未定が2支部、2023年開催が2支部。一方で2021年の未開催により同社から本年以降の資金交付について1年延期の打診があった、今後詳細を詰めていく。また、本件助成では同社は教育効果の検証を重視しており、開催後のアンケート実施も行う方針。

⑮ 呼吸リハビリテーション手技マニュアル作成委員会報告

神津委員長より、呼吸ケアカンファレンスのテキストを基にマニュアルを整備していくが、スケジュールについて、COVID-19の蔓延を踏まえ1年延期して2022年11月の発行を目指していくこと、2021年12月末までに呼吸ケアカンファレンスで作成したテキストをベースに作成作業を完了し、2022年1月以降で編集、修正作業を進める方針である、との報告があった。

第13号議案 2022年の代議員選挙及び理事選挙について

議長の名指により、事務局より資料68頁記載の表記選挙の概要ならびに選挙管理委員長には関東支部長の権寧博先生が選任された旨、説明があった。

第14号議案 その他について

特になし

以上を以て、すべての審議は終了した。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第23条第2項に基づき、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

2021年11月11日

一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
定時代議員総会

議 長 植木 純 印

議事録署名人

桂 秀樹 印